

# 学校評価表

本校の目指す教育	国家社会の進展に寄与できる実践力に富んだ有徳な人物の育成を目指して、おおらかな徳操、高い知性、健全なる身体、勤労の精神、実行の勇気を涵養し鍛錬する。
本年度の重点目標	1 充実した授業を通して、確かな学力の伸長を図る。 2 生徒の特性を生かす指導に努め、進路実現に意欲的に取り組む意欲を育てる。 3 基本的な生活習慣を身につけた礼儀正しさ、自主的な生活態度を育てる。 4 生徒会活動や部活動を奨励し、他者との協働を積極的に推進する。

自己評価							学校関係者評価
年度当初の状況				年度末の最終評価（3月）			実施日：令和3年10月6日
番号	評価項目	現状・課題	具体的な方策	評価指標	経過・達成状況等	達成度	今後の課題と改善策
1	授	従来型の授業から脱却し、「主体的・対話的で深い学び」を実現すべく、より授業の質を高めると同時に、基礎学力と応用力の向上を図る。	アクティブラーニングを積極的に取り入れ、従来型の授業からの脱却を図る。  授業互見期間を設け、多くの気づきを得るようにする。	積極的に研修に努め、授業にアクティブラーニングを取り入れられたか。  二人以上の授業を参観できたか。	オンライン型の研修を多くの教員が受講し、スキルアップを図った。  参観状況は例年並みであった。	B	研究授業や互見授業等を継続的にこなしていく。  授業互見期間の参観状況を向上させる。
		授業規律を向上させ、学ぶ意識を高める。	チャイム・トウ・チャイムの実践。	チャイムと同時に授業が始まっているか	コースや学年によって差があったが概ね守られていた。	B	教員・生徒とも時間意識をより浸透させる。
	業	ICT教育を推進するために全教員の共通理解を図ると同時にスキル等も学ぶことで、生徒の「情報活用能力」や「創造力」を向上させる。	ICTを活用した授業を展開できるよう、ICT教育推進委員会において積極的に授業研究をおこなう。また教員対象の研修会を実施する。	ICTを活用した授業を具体的に提案できたか。研修会を実施できたか。	6月・7月に研修会を、また2月に、1月に行ったりリモート授業の模擬授業研修を実施した。	A	次年度の1年生から全員がパソコンを購入するため、オンライン授業の技量も含め、さらに授業スキルを向上させる必要がある。従って、校内外の、研修会を積極的に推進していく必要がある。
		ICT教育を推進できる環境が整っていない。	ICT教育を進めるための環境を整える。	校舎内にWi-Fi環境が整ったか。	8月から9月にかけて工事が行われ、環境は整った。	A	各コースの指導目標に沿った教科書を選定する。「総合的な探究の時間」の具体的な実践案をつめる必要がある。
		新学習指導要領にもとづく教育課程を編成する。	各コースの目標や本校の教育目標をもとに、広く意見を求めながら作成する。	教科会議やコース会議の意見を踏まえながら現時点で最も良いと思われる教育課程が作れたか。	様々な意見を調整し、現時点では最良のものを作成できた。	A	各コースの指導目標に沿った教科書を選定する。「総合的な探究の時間」の具体的な実践案をつめる必要がある。
2	進路	希望進路を実現させるためキャリア教育を一層推進していくとともに、進路指導体制を確立させる。	第一志望届提出のための情報収集を促す取り組みを実施する。  第一志望合格を実現させるための学力習得に向けた努力を促す。	学校説明会へ積極的に参加し、収集した情報の共有を図れたか。  学習時間を確保できたか。またそのための指導をおこなうことができたか。	分析会等を実施し、模試等のデータを共有することで、生徒の現状を把握し、指導に役立てることができた。手帳指導等を通して生徒の状況を把握し、適宜指導をおこなうことができた。	A	過渡期にある大学受験に対応するため、積極的に説明会に参加するとともに、情報交換を密にし、より適切に指導できるようにする。特に総合型選抜への対応を丁寧におこなう。
		進学する生徒の多くは総合型選抜・学校推薦型選抜で進学する。	朝学習等を利用した文章書写や国語科と担任を中心とした小論文指導を徹底して行う。	生徒たちが目的意識をもって活動できたか。また「書く」指導を恒常的にこなせたか。	4・5月の臨時休業により始動が遅れたが、何とか対応できた。但し活動報告書への対応に課題が残った。	B	担任を中心に小論文・面接指導を丁寧におこなう。また外部講師による講習会も積極的にこなす。
	指導	一般選抜で受験する生徒を確保し、しっかりとバックアップする。	進学センターを稼働させ、一般選抜で合格できる学力を養成する。	年間を通じて進学センターによる講習を継続して実施できたか。また、受講者を確保できたか。	一般受験者への指導も丁寧におこなうことができ、ある程度満足いく結果が得られた。	A	一般受験者を増やし、且つ確かな実力を養うため、進学センターによる講習を充実させていく。
		家庭との連携を強化し、生徒・保護者・教師が一体となって進路指導に取り組む。	三者面談期間を設け、保護者を交えて、学習や進路について意見を交換できる環境を整える。	三者面談期間を設けることができたか。またその期間を有意義な時間にできたか。	2学期に三者面談期間を設け、文理選択や進路に向けてしっかりと話をすることができた。希望者にはオンラインで面談した。	A	保護者との連携を密にし、生徒がよりよい進路選択ができるよう助力していく。
3	生徒	服装や髪型は、校外でもきちんとしていくよう、引き続き全校での指導を継続する。	毎月1回の全校一斉の服装髪型確認を継続する。	校内外において、生徒がきちんとした制服や髪型で生活できたか。	登校時に生徒指導部を中心に立哨指導を行った。	B	服装や髪型については、校外でもきちんとしていくよう、引き続き指導する。
		登下校時の安全とマナーの向上を図る。	深谷駅でのバス乗車指導を継続する。また生徒指導部を中心に、整容指導を徹底する。	深谷駅でのバス乗車指導、また朝の整容指導を継続しておこなえたか。	コロナウィルス感染症対策も並行しながらおこなった。	B	自転車利用者のマナーについて、粘り強く指導していく。
	指導	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐための対策に万全を期すとともに、生徒が安心して登校できるようバックアップに努める。	毎朝の検温チェックや、アルコール消毒、換気の奨励等できることを継続する。また生徒によってはカウンセリングを行っていく。	検温指導をおこない新型コロナウイルス感染症の拡大を防止できたか。検温を忘れる生徒を減らすことができたか。	毎日の健康チェックを実施した。検温を忘れた生徒への指導もこまめにおこなうことができた。	A	休日の健康チェック忘れが少なくないため、必ずおこなうように粘り強く働きかけていく。
		SNSの使用方法・マナーについては、今後とも継続的に指導していく必要がある。	学校生活アンケートを実施し、早期の問題発見・解決に努める。	学校生活アンケートを実施したか。またその結果を生活指導に生かすことができたか。	例年実施しているスマホ・ケータイ安全教室が実施できなかったため、進路指導部だより等を利用しながらSNSの使用方法・マナーについて指導した。	B	SNSの使用方法・マナーについては、恒常的に指導していく必要がある。また健康への影響もしっかりと伝えていく。

達成度 A：達成（100%）、B：概ね達成（75%）、C：達成途中（50%）、D：取り組みを開始（25%）、E：取り組めず（0%）